

## 地方独立行政法人奈良県立病院機構 中期目標・中期計画（案）

I. 患者が心から納得するサービス

1. 中期目標を達成し、最高の病院となること
2. 患者の視点に立ったサービス

III. 県民の健康維持への貢献

1. 県内の医療機関との連携・協力体制の充実
2. 県内の医療レベル向上に向けた支援
3. 災害医療体制の強化
4. 県民への医療・健康情報の提供
5. 県が実施する健康長寿のまちづくりへの支援

II. 高度で最新の医療

1. 断らない救急の実現
2. 質の高いがん医療
3. 周産期医療体制の強化
4. 小児医療体制の整備
5. リハビリテーション機能の充実
6. 高齢者を対象とした医療体制の整備
7. 医療安全・院内感染の防止
8. 新病院整備の推進

IV. 最高レベルの医の心と技をもった人材の育成

1. 最高レベルの医の心をもった人材の育成
2. 最高レベルの医の技をもった人材の育成

V. 自立した経営

1. 権限と責任を明確にしたガバナンス体制の確立
2. 経営に対する責任感をもって業務改善に取り組む組織文化の醸成
3. 医療制度等の変化への迅速・柔軟な対応と自立した財務運営

地方独立行政法人奈良県立病院機構 中期目標・中期計画(案)

大項目	中期目標 中項目・成果目標	法人の決意、方針	中期計画	具体的取組み
-----	------------------	----------	------	--------

1. 中期目標を達成し、最高の病院となること

【期待する成果】

中期目標の達成状況

H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
評価委員会の評価結果を常に高い水準で維持					

患者満足度「病院に満足しているか」

H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
79%					90%以上
常に前年度より改善させる					

患者満足度「病院に満足しているか」

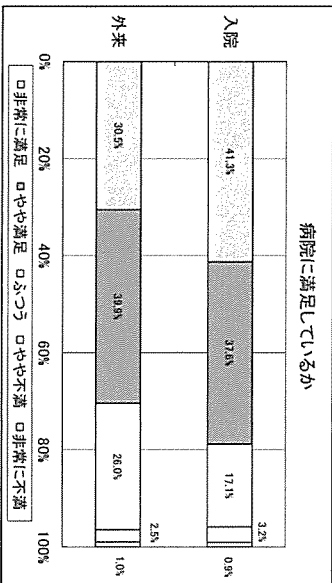
H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
70%					90%以上
常に前年度より改善させる					

職員満足度「職場に満足しているか」

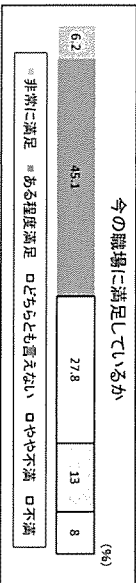
H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
51%					80%以上
常に前年度より改善させる					

現状

○患者満足度調査結果



○職員満足度調査結果



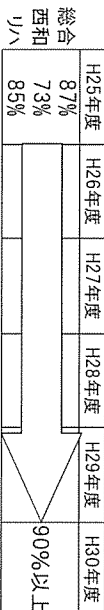
○全職員が最高の病院になることを目指す

・法人の理念及び中期目標・中期計画の浸透

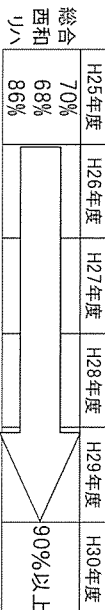
・患者満足度を毎年増加させる

【患者満足度】

「病院に満足・やや満足」の割合



「病院に満足・やや満足」の割合



・職員満足度を毎年増加させる

【職員満足度】

「職場に満足・やや満足の割合」



○法人の理念及び中期目標・中期計画の浸透

・理事会、経営企画会議等での決定事項の全職員への周知

H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
理事会、経営企画会議毎月各1回開催				

・3病院合同での会議等の開催

H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
病院ごとの経営企画委員会毎月開催				
3病院合同で部門別の連絡会議の開催				

・教育研修センターの設置と充実

H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
充実した研修の実施				
新病院の研修施設の整備				
研修のさらなる充実				

職別研修(ホスピタリティ・コミュニケーション研修等)  
専門研修  
課題別研修  
その他の研修(国内外留学等)の実施

・法人の理念及び中期目標・中期計画を記載した職員用ハンドブックを作成するなど周知を徹底

ハンドブックを全職員に配布 約1,500部作成

2. 患者の視点に立ったサービス

【期待する成果】

患者満足度「礼儀正しく、ていねいな対応か」

入院	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
	86%					100%に近づける
						※に前年度より改定させる

患者満足度「礼儀正しく、ていねいな対応か」

外来	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
	78%					100%に近づける
						※に前年度より改定させる

患者満足度「設備・環境は快適か」

入院	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
	59%					90%以上
						※に前年度より改定させる

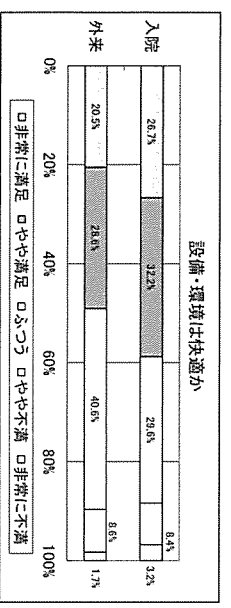
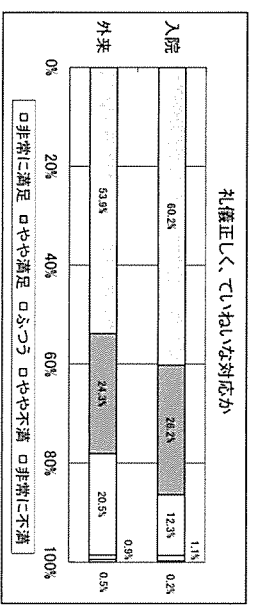
患者満足度「設備・環境は快適か」

外来	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
	49%					90%以上
						※に前年度より改定させる

現状

○ 県民アンケートにおいて、「急病時に診てもらえる医療機関」、「安心できる周産期医療体制」の項目については、重要性は高いが、満足度が低いという結果がでている（H25年度調査結果）

○ 患者満足度調査結果



○ホスピタリティアップの醸成を図る

- ・患者の視点に立った医療の提供
- ・患者参加型医療の提供
- ・治療に専念できる環境を充実させる

【患者満足度】

「礼儀正しく、ていねいな対応か」入院

年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
総合	90%					100%に近づける
西和	84%					
リハ	87%					

「礼儀正しく、ていねいな対応か」外来

年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
総合	79%					100%に近づける
西和	75%					
リハ	86%					

「設備・環境は快適か」入院

年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
総合	58%					90%以上
西和	53%					
リハ	75%					

「設備・環境は快適か」外来

年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
総合	46%					90%以上
西和	47%					
リハ	71%					

具体的取組み

○ 教育研修センターでの接遇・リクスナーズ・コミュニケーション研修等の実施  
・職員による1日患者体験の実施

○ 患者の視点に立った医療の提供  
・患者満足度調査、患者の声等の患者意思を病院運営に反映させる

○ 臨床指標（クリニカルインデクサー）の設定と公開

- インフォームドコンセントの徹底
- ・ クリニカルパスの整備・運用
- ・ チーム医療体制の充実
- ・ 入院時治療計画の説明の徹底

○ 患者・患者家族に対する相談機能の充実  
・ 患者支援センターの設置

年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
外国人患者受け入れ体制整備					
体制整備等準備					
					受け入れ

○ 病院機能評価の認証取得  
（総合医療センター・西和医療センター・リハビリテーションセンター）  
～将来的に、総合医療センターにおいて JCIの認証取得を目指す～

年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
西和	受審準備		認証取得	活動・改善	
リハ	受審準備		認証取得	活動・改善	
総合	受審準備		認証取得	JCI 受審準備	活動・改善

○ 治療に専念できる環境を充実させる  
・ ハードソフト両面にわたる患者の視点に立ったアメニティづくり  
・ コンシェルジュの配置  
・ 総合案内、誘導案内など思いやりのある案内の実施  
・ 最新の医療機器の整備

1 患者が心から納得するサービス

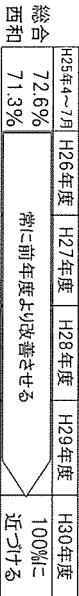
Ⅱ 高度で最新の医療

1. 断らない救急の実現

・救急搬送ルートに則った救急患者を100%受け入れる

【期待する成果】

救急搬送受入率



現状

- 緊急度の高い患者(心肺停止、脳卒中、急性心筋梗塞、重症外傷等の重症疾患)の受入先確保に要する病院紹介回数4回以上の割合

H23年 13.2%

※県地域医療連携課調べ

- 全国平均と比べて119番通報から病院収容までの所要時間が長い

救急搬送の平均収容所要時間  
H23年 奈良県 42.0分  
全国平均 38.1分

※消防庁「平成24年版 救急・救助の現状」より

- 県内患者数の推移
  - ・心疾患は、全国では減少しているが、奈良県は増加している
  - ・脳血管疾患は、全国、奈良県で減少傾向にあるが、65歳以上の患者数は、奈良県は増加している

	H17年度	H20年度	H23年度
心疾患	奈良県 9千人	奈良県 10千人	奈良県 12千人
	全国 865千人	全国 810千人	全国 757千人
55歳以上	4千人	4千人	3千人
	668千人	640千人	590千人
脳血管疾患	11千人	9千人	10千人
	1,367千人	1,339千人	1,239千人
65歳以上	3千人	3千人	5千人
	1,087千人	1,097千人	1,020千人

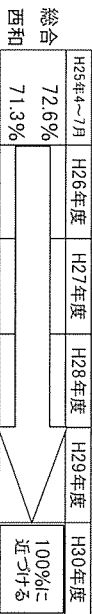
※厚生労働省患者調査より  
※調査日において、継続的に医療を受けている入院・外来患者数から総患者数を推計

○24時間365日の救急搬送受け入れを可能とする

・受入体制の構築

・人材の確保、養成

・院内後方支援・連携体制の整備



救急車受け入れ件数

年度	H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
総合	1,760人					3,000人
(H25見込)						
西和	2,147人					2,500人

時間外救急患者数

年度	H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
総合	7,159人					10,000人
西和	6,242人					7,000人

心筋梗塞・狭心症・慢性虚血性心疾患受入患者数

年度	H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
総合	377人					600人
西和	634人					900人

脳卒中受入患者数

年度	H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
総合	302人					450人
西和	253人					400人

共通項目

- 搬送要請された救急患者を全て受け入れる
- ・e-MATACHIにおいて、受入可否情報を常に最新のものとする
- ・救急受入ルールの検証、運用と院内ガバナンス構築
- ・救急隊との情報交換の実施、搬送ルールの共通理解
- ・院内の各科での受入体制の充実
- ・他病院との連携体制の構築
- ・救急専門医の確保・育成
- ・専従のトリナー・ジュニアの育成・配置
- ・救急看護、集中ケア認定看護師の養成
- ・急性・重症患者看護専門看護師の確保
- ・総合内科医と各科の後期研修医の確保

総合医療センター

- ・特に重篤な救急患者を全て受け入れる
- ・ER体制を実現する
- ・脳梗塞、脳内出血、急性心筋梗塞に対して早期治療ができる体制強化
- ・精神科身体合併症患者の受け入れ体制の構築

西和医療センター

- ・当直医とは別の救急外来を担当する医師の配置
- ・循環器疾患への高度医療の提供

Ⅰ 高度で最新の医療

2. 質の高いがん医療

- 県内でがん治療を希望する県民を100%対応するため、県内の他の医療機関と連携する

【期待する成果】

院内がん登録患者数を増やす (1～12月実績)

H24年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年
1,007人					50%増

常に前年度より改善させる

○ 他府県と比べ、県外の医療機関を利用する人の割合が高く、入院では15.49%(全国第3位)、外来では15.89%(全国第4位) (厚生労働省 平成23年患者調査)

H23 患者調査	入院		外来			
	総数	割合	総数	割合		
奈良	1,300人	200人	15.4%	1,900人	300人	15.8%
全国	134,800人	9,200人	6.8%	163,500人	10,600人	6.5%

○ がん薬物療法専門医、放射線治療専門医、緩和ケア専門医が県下に少ない

放射線治療専門医 11名(H24.11.19現在)  
 がん薬物療法専門医 6名(H25.1.10現在)  
 緩和ケア専門医 0名(H24.4.1現在)

出典：第2期奈良県がん対策推進計画  
 (関係学会等の公表データから県と共ため)

※県立病院の現状  
 総合医療センターに放射線治療専門医1名のみ

○ 県内の医療機関と連携して県内でがん治療を希望する県民を100%受け入れるために、主体的な役割を果たす

院内がん登録患者数 (1～12月実績)

H24年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年
1,007人					50%増

西和 1,500人 (15%増)  
 県立 220人 (15%増)  
 250人

・ 手術療法、放射線療法、化学療法などのがんの集学的治療の提供

・ 早期がんだけでなく他病院では診ることができない進行がんにも対応

・ 地域がん診療連携拠点病院としての機能の発揮

・ 人材の確保、養成

専門医等の養成・確保・増員

H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
				増員

養成・確保

放射線治療件数

H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
7,063件					29%増

8,500件

外来化学療法件数

H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
2,066件					4倍増

4,000件

悪性腫瘍手術件数

H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
618件					30%増

1,900件

内視鏡検査件数(うち治療件数)

H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
5,176件					60%増

8,200件 (260)

共通項目

○ 総合医療センターと西和医療センターの役割分担と連携

- 確定診断からの最短の治療開始を目指す
- 最新の医療機器、先進的な治療法の積極的な導入
- 内視鏡的治療・インターベンション治療の低侵襲治療の充実
- がん連携パスの稼働を促進し、地域の医療機関との連携の強化

○ 人材の確保、養成

- 放射線治療専門医、がん薬物療法専門医、乳腺外科医、緩和ケア専門医、血液内科専門医等
- 医学物理士
- 放射線治療品質管理士
- がん薬物療法認定薬剤師
- がん専門薬剤師
- 認定看護師(緩和ケア、がん化学療法、がん性疼痛看護、がん放射線療法看護、乳がん看護)
- がん看護専門看護師

大項目	中期目標 中項目・成果目標	法人の決意、方針	中期計画 具体的取組み
			<p>総合医療センター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 手術療法、放射線療法、化学療法などのがんの集学的治療の提供</li> <li>・ 早期がんだけでなく他病院では診ることができない進行がんにも対応</li> <li>・ 重篤な合併症を有しているがん患者への対応</li> <li>・ 苦痛軽減のための早期からの緩和医療の提供</li> </ul> <p>○ 地域がん診療連携拠点病院としての機能の発揮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新病院の整備</li> <li>・ 最新医療機器（放射線治療機器3台）の導入</li> <li>・ 外来化学療法室の拡充（7台→20台）</li> <li>・ 緩和ケア病棟20床の設置</li> </ul> <p>西和医療センター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 手術療法、化学療法の充実 （放射線治療については新病院建設時に導入の検討）</li> </ul>

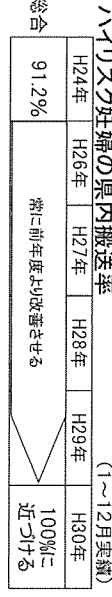
3. 周産期医療体制の強化

Ⅰ 高度で最新の医療

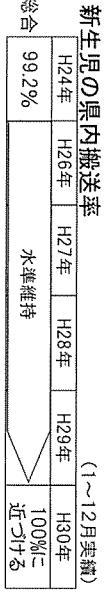
- ・ 県立医科大学と連携してハイリスク妊婦・新生児の県外搬送ゼロに貢献する
- ・ 安心してお産ができる体制を整備する

【期待する成果】

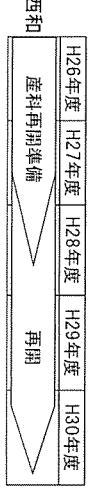
ハイリスク妊婦の県内搬送率



新生児の県内搬送率



西和医療センターの産科再開



現 状

- 県民アンケートにおいて、「安心してできる周産期医療体制」の項目については、重要性は高いが、満足度が低いという結果がでている (H25年度調査結果)
- ハイリスク母体の県内搬送の割合 91.2%  
新生児の県内搬送の割合 99.2%  
(H24.1～12月実績)
- NICUの後方病床が不足しておりNICU稼働率が常に高い状況

県立奈良病院の平成23年度病床稼働率等

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
NICU	73.1%	75.9%	92.4%	102.4%	96.1%	79.3%
GCU	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	86.9%	100.4%	103.4%	101.1%	93.6%	90.3%

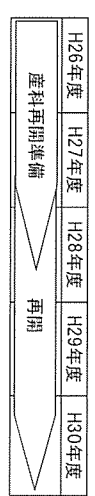
※H25. 4. 1 現在  
NICU 9床 産婦人科 9名  
GCU 6床 医師数 新生児集中治療室 7名

法人の決意、方針

○ ハイリスク妊婦・新生児の県外搬送ゼロを目指すために貢献する

・ 24時間365日のハイリスク妊産婦及び新生児の搬送受入を可能とする体制の強化

・ 西和医療センターにおける産科の再開



具体的取組み

NICU病床利用率

年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
利用率	98.5%						93.0%

GCU病床利用率

年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
利用率	82.4%						85.0%

分娩件数(うち帝王切開件数)

年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
総計	472件						560件
帝王切開	171件						210件

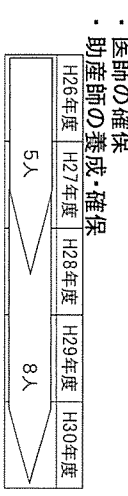
20%増

- 24時間365日のハイリスク妊産婦及び新生児の搬送受入を可能とする体制の強化
  - ・ 周産期医療を担う人材の確保、育成 (小児循環器医、小児外科医、小児心臓血管外科医等)
  - ・ 新総合医療センターにおける病床の整備 MFICU 3床、NICU 12床、GCU 18床を整備する
  - ・ 新生児搬送、ドクターカーの運用

※現在の総合医療センターにおける対応領域

- ・ 合併症を有する妊婦、異常出血を伴う妊婦の対応
- ・ 胎児異常が疑われる妊婦への対応
- ・ 切迫早産については、妊娠28週あるいは児推定体重1,000g以上への対応
- ・ 出生体重1,000g以上の新生児への対応

○ 西和医療センターにおける産科の再開



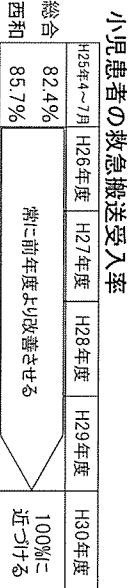
大項目

Ⅱ 高度で最新の医療

4. 小児医療体制の整備

- ・急性期を中心とした小児医療の拠点病院として、重症の小児患者を確実に受け入れる

【期待する成果】

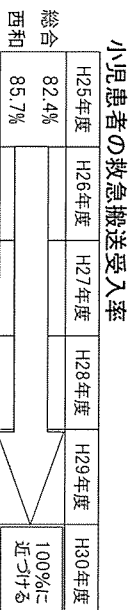


現 状

- 小児科二次輪番時の患者のうち、入院が不要で帰宅した患者の割合が84.9%(H24年度)である

○小児救急患者を確実に受け入れる

- ・小児救急機能の強化
- ・人材の確保、育成



○特化した専門領域の診療の開始を検討する  
(小児整形、小児泌尿器等)

- ・地域の他病院との連携を強化する

小児患者の救急入院患者数

年度	H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
総合	561人					倍増 1,000人
西和	203人					倍増 400人

共通項目

- ・小児救急機能の強化
- ・二次小児輪番の参加病院としての役割を果たす
- ・二次小児輪番日以外における対応の検討
- ・人材の確保、育成
- ・小児看護専門看護師の確保

総合医療センター

- ・重症の小児患者の確実な受け入れ
- ・重症心身障害児の急性増悪時における受け入れ
- ・小児救急を担う医師の確保
- ・小児救急看護認定看護師の養成
- ・重症患者を受け入れるベッドの整備(PICU2床)

西和医療センター

- ・二次救急の充実
- ・西和地域での休日診療への支援(H28から実施予定)



Ⅰ 高度で最新の医療

5. リハビリテーション機能の充実

- ・ 高度・専門的なリハビリテーション医療を充実させる

- ・ 急性期の疾病治療・リハビリテーションから、回復期のリハビリテーションを連続的、一体的に提供する体制を構築する

【期待する成果】

急性期病院在院日数

	H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
総合						
西和						
在宅復帰率						
リハ	H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度

現状

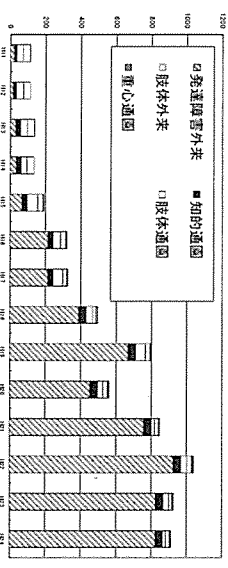
- 総合医療センター・西和医療センターからリハセンターに転院する患者は少ない

総合医療センターからリハセン 6名  
西和医療センターからリハセンへ 15名  
(H24年度実績)

- 総合医療センター・西和医療センターとリハセンターが一貫したリハビリを行えば、リハビリ効果は上がる

- 発達障害児の増加は著しいが、県内の受入施設は不足している。保護者から訓練回数(頻度)の増、訓練終了後の継続支援等の要望が強い

《参考》小児リハビリオーダー数の推移



【概要】

- ・ 発達障害外来の件数は年々増加
- ・ H23以降、施設等の制約から、オーダー制限を行っている。

法人の決意、方針

- 患者の多様なニーズに対応できる高度・専門的リハビリテーションを提供する

- 急性期から回復期にかけての一貫した最適なリハビリを行い、多くの方が在宅復帰できるよう支援する

- ・ 急性期については総合医療センター・西和医療センターにおいて、回復期にかけては総合リハビリテーションセンターにおいて役割を担当

- 障害児(者)医療の充実

- ・ 障害をもった人が安心して医療を受けられる体制を充実させる

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
リハ						

心大血管 リハビリテーション実施件数

	H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
総合	1,547件					40%増 4,200件
西和	—	見込 2,800件				12%増 3,200件

脳血管 リハビリテーション実施件数

	H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
総合	13,422件					5%増 14,000件
西和	9,337件					15%増 10,800件
リハ	163,883件					2.5%増 167,500件

運動器 リハビリテーション実施件数

	H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
総合	7,626件					20%増 9,000件
西和	7,475件					15%増 8,600件
リハ	33,134件					2.5%増 34,000件

摂食機能療法実施件数

	H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
総合						
西和						
リハ						

呼吸器 リハビリテーション実施件数

	H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
総合	3,119件					15%増 3,600件
西和	258件					15%増 280件

小児リハビリ外来の患者数

	H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
リハ	15,041人					2.5%増 15,400人

法人内からリハビリテーションセンターへの受入件数を倍増

	H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
リハ	21件					倍増

共通項目

- 地域医療連携室の強化
- ・ 3病院の地域医療連携室の機能強化
- ・ 3病院の地域医療連携室の共働
- ・ 在宅復帰支援の充実
- ・ 維持期リハビリテーションへの円滑な移行

大項目	中期目標 中項目・成果目標	法人の決意、方針	中期計画	具体的取組み
			<p>リハビリテーションセンター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中核リハビリテーション施設としての充実強化を図る</li> <li>・ 高次脳機能障害、脊髄損傷、摂食嚥下障害など多様な疾患に幅広く対応</li> <li>・ 患者一人1日120分(6単位)以上の集中的で効果的なリハビリテーションの実施</li> <li>・ 最新のリハビリ療法やロボットスーツなどの先進訓練機器の導入</li> <li>○ 人材の確保・育成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リハビリテーション科専門医</li> <li>・ 発達障害児に対応する小児科・児童精神科医師の確保</li> <li>・ 認定看護師(脳卒中リハビリテーション看護、摂食・嚥下障害看護、認知症看護、皮膚・排泄ケア)の育成</li> <li>・ 最新の又は専門性の高いリハビリ療法を担うセラピストの養成</li> </ul> </li> <li>○ 小児の発達障害の診療及びリハビリテーション <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発達障害児に対する感覚統合療法の充実</li> </ul> </li> <li>○ ロコモテラジンドームに関わる検診コースの整備</li> </ul> <p>総合医療センター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体制を強化し、365日リハビリテーションを実施する</li> </ul> <p>西和医療センター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul>	

Ⅱ 高度で最新の医療

6. 高齢者を対象とした医療体制の整備

- ・ 県と協力してロコモティブシンドロームの認知度を上昇させる
- ・ 糖尿病の医療連携体制の充実

【期待する成果】

- ・ 3病院でのロコモティブシンドローム認知度を80%にする (H28年度以降は、病院で調査を実施)
- ・ 糖尿病専門医の確保、糖尿病専門診療科の設置

現状

- 平成42年までに運動器関連疾患の患者は急増する
- ロコモティブシンドロームの認知度  
H24年度 26.6%  
※日本整形外科学会「ロコモティブシンドローム生活者意識全国調査」より
- 政府は、健康日本21(第二次)において、H34年度ロコモティブシンドロームの認知度80%を目標としている

- 県内で糖尿病が強く疑われる患者数 約101千人  
糖尿病の可能性が否定できない者 約149千人  
(H19厚生労働省 国民健康 栄養調査から推計)
- 県内に糖尿病専門医が少ない  
専門医数 奈良県 26名  
奈良病院 0名  
三室病院 0名  
※(社)日本糖尿病学会ホームページより(H25.11.11確認)

【運動器疾患】

- 関節障害等をはじめとする筋骨格系疾患や、将来的に要介護リスクが高まる患者(ロコモティブシンドローム)への対応体制を整備する
- ・ 法人内の病院における役割分担

ロコモティブシンドロームの認知度

H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
調査実施	3病院での認知度を80%にする			80%

【糖尿病】

- 糖尿病治療の拠点病院として、安心して良質な糖尿病の専門治療を提供する

- ・ チーム医療の活動強化
- ・ 人材の確保、養成
- ・ 地域の医療機関へのサポート

糖尿病専門診療科の設置

H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
準備		専門診療科の設置		

【運動器疾患】

- 法人内の病院における役割分担
- 回復期・維持期の医療を提供する地域の医療機関との連携の強化
- ロコモティブシンドロームについて、関係機関、在宅医療提供機関との連携のコントロールタワーとしての役割を担う

西和医療センター

- 運動器疾患への対応
- ロコモティブシンドローム専門外来の設置
- 西和地域でのサテライト診療所におけるロコモティブシンドロームの普及・啓発

リハビリテーションセンター

- ロコモティブシンドロームにかかわる検診コースの整備

【糖尿病】

共通項目

- チーム医療の活動強化
- 人材の確保・養成
- 糖尿病治療を担う人材の確保
- ・ 糖尿病専門医
- ・ 糖尿病看護認定看護師
- ・ 糖尿病療養指導士
- 地域の医療機関へのサポート
- 専門的治療、慢性合併症治療、初期・安定期治療を担う医療機関との連携強化

総合医療センター

- ・ 糖尿病の急性合併症、急性増悪時の患者を受け入れる
- ・ 糖尿病サポートチーム・キドニーサポートチーム・ソフタケア外来・チーム医療の充実を図る

西和医療センター

Ⅱ 高度で最新の医療

7. 医療安全・院内感染の防止

○ 医療安全管理体制を整備する

【期待する成果】

患者満足度「安心して医療を受けられたか」

H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
85%					100%に近づける
※に前年度より改善させる					

患者満足度「安心して医療を受けられたか」

H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
75%					100%に近づける
※に前年度より改善させる					

現状

○ 病院ごとに医療安全対策を実施

○ インジレント発生件数(レベル0～1)

H22年度	H23年度	H24年度	H22年度	H23年度	H24年度
1,326件	1,260件	1,175件	62件	72件	45件
西和	941件	871件	34件	23件	14件
リハ	—	—	—	—	0件

○ 医療安全・院内感染防止対策を徹底する

・法人における医療安全管理体制の確立 (外部委員を入れた医療事故調査委員会の設置・運営)

H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
検討				
設置				

・3病院合同の事例検討発表会の実施

【患者満足度】

「安心して医療を受けられたか」入院 (非常に満足・やや満足の割合)

H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
90%					100%に近づける
西和	83%				
リハ	83%				

「安心して医療を受けられたか」外来 (非常に満足・やや満足の割合)

H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
74%					100%に近づける
西和	75%				
リハ	84%				

○ 新病院の機能充実に向け計画的に取り組む

○ 院内における医療安全対策体制の見直し

- ・安全対策委員会の開催
- ・医療安全に関する研修会の開催
- ・医療事故、トータル事例の調査・報告、調整会議
- ・医療事故調査委員会等の設置

○ インジレント・アクシデントに係る調査、分析、防止対策

- ・医療安全部会における、調査、分析、情報の周知及び事例検討の実施
- ・死亡例全例及び重大合併症を対象とした検討会を多職種参加で定期開催(毎月1回)
- ・警鐘事例は3病院合同検討会開催(年1回)

○ 医療相談

- ・各部署における医療安全管理に関する相談・助言(マネージャー的役割として)
- ・他部署との連絡、調整

○ 院内感染に係る調査、研究、予防対策

- ・院内感染の発生原因の究明
- ・防止対策の確立
- ・3病院で院内感染対策サーベランス(JANIS)に参加
- ・コンサルテーション、職員教育
- ・感染に関する研究会の開催

○ 病院機能評価の取得(再掲)

新総合医療センターの整備

H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
			計画的に準備		開院
※H26年度中完成予定					

新西和医療センターの整備等

H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
		調査	設計	
方針決定				

看護専門学校統合校の整備

H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
		設計	開校	
工事、完成				

3病院共通の電子カルテシステム整備

H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
		設計	稼働	
検討				

- 医師、看護師等の計画的な人材確保
- 運営計画、機器選定について計画的に準備
- 電子カルテシステムの整備(マイ健康カードのモデル実施)

8. 新病院整備の推進

【期待する成果】

- ・平成28年度中、新総合医療センター完成
- ・新西和医療センターの整備
- ・看護専門学校統合校の整備
- ・3病院共通の電子カルテシステム構築

現状

- 新総合医療センター
  - 平成25年秋頃 造成工事着手
  - 26年秋頃 建築工事着手
  - 28年度中 完成予定

1. 県内の医療機関との連携・協力体制の充実

【期待する成果】

紹介率

H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
52.3%					80.0%
西和	常に前年度より改善させる				

逆紹介率

H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
74.4%					80.0%
西和	常に前年度より改善させる				

Ⅱ県民の健康維持への貢献

○患者にとって最適な医療を提供するため、県内の医療機関との連携を積極的に推進する

- ・ 地域医療支援病院としての機能強化
- ・ 地域包括支援センターとの連携強化

紹介率

H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
52.3%					80.0%
西和	常に前年度より改善させる				

逆紹介率

H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
74.4%					80.0%
西和	常に前年度より改善させる				

現 状

○地域医療連携バスの運用促進に貢献する

○退院調整会議の充実

退院調整会議の開催・回数				
H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
3病院 共通の 定義数値				倍増
西和	開催			
リハ				

地域医療支援病院として地域医療機関の医療従事者向け研修会の実施回数

H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
12回					12回以上開催
西和	毎年12回以上開催				

- 地域医療支援病院としての機能強化
- ・ 3病院の地域医療連携室の機能強化
- ・ 3病院の地域医療連携室の共働
- ・ 地域医療連携バスの運用促進
- ・ 地域の医療機関との連携のさらなる強化
- ・ 地域医療機関の医療従事者向けの研修会の開催

- 地域包括支援センターとの連携強化
- ・ 在宅医療への支援
- ・ 保健師との交流、情報共有

脳卒中地域連携バス発行件数

H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
13件	14件	14件	15件	15件	50件
西和	24件	25件	26件	27件	28件

脳卒中地域連携バス受け入れ件数

H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
50件	40件	45件	50件	50件	50件
リハ					

○地域医療支援病院の指定を受けている

H24年度	紹介率	逆紹介率
【総合医療センター】	52.3%	74.4%
【西和医療センター】	66.1%	77.8%

○地域医療連携バス

- ◆脳卒中地域連携バス
  - ・バス発行状況 265件 (H24.2末～H25.3末)
  - ・参加医療機関
    - 急性期 15
    - 回復期 25
    - 維持期 14 (H25.3.31現在)
- \*急性期病院から報告のあった数字

- ◆がん地域連携クリティカルバス 運用件数 112件 (H24年度実績)

- ◆虚血性心疾患地域連携バス (中南和地域を中心に運用)
  - ・バス発行状況 67件 (H23.7～H25.1末)
  - ・参加医療機関 131 (H25.6.4現在)

大項目 中期目標 中項目・成果目標

法人の決意・方針

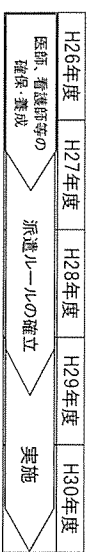
中期計画

具体的取組み

2. 県内の医療レベル向上に向けた支援

【期待する成果】

県が設置する地域医療支援センターによる医師派遣機能等の一翼を担うこと



県内の医療機関の医療従事者の短期・長期研修等受け入れ

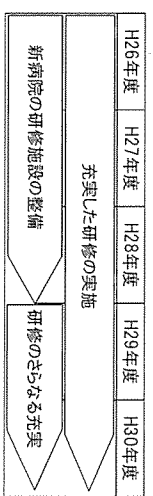


現 状

○ 地域医療機関の医療従事者の研修会参加者数

H24年度	総合医療センター	150人
	西和医療センター	68人

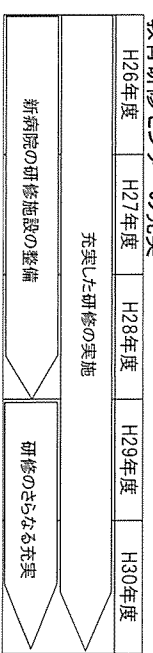
○ 教育研修センターの充実



○ 県内の医師や看護師等医療従事者の資質向上を支援する

- ・ 教育研修センターにおいて県下の医療機関に開放した研修の実施
- ・ 県内の医療機関への施設・設備の開放

○ 県内の医療レベルの向上に向けた支援



- ・ 県内の医療機関の医療従事者への研修機会の提供
- ・ 県内の医療機関の医療従事者の短期・長期研修等受け入れ
- ・ 救急救命士の病院実習の受け入れ（生涯教育実習・気管挿管実習・薬剤投与実習）
- ・ 県内の医療機関の医療従事者への研修棟の設備、医療機材の利用促進
- ・ 潜在看護師への研修の実施

大項目 Ⅱ県民の健康維持への貢献

3. 災害医療体制の強化

【期待する成果】

災害発生時の受入・派遣要請に応じる

- ・ 災害発生時の受入体制の強化
- ・ 災害発生時のスムーズな医療スタッフの派遣

現 状

- 災害拠点病院の指定を受けている [総合医療センター]
- 災害派遣医療チームが整備されている
- 医療救護班の派遣体制が整備されている
- 新型インフルエンザ等感染症の受入体制はできているが入院体制は不十分である

【全災害拠点病院におけるDMATチーム整備数】

H25. 1現在 11チーム

※出典:奈良県保健医療計画(H25.4)

法人の決意・方針

- 災害時においても病院機能を維持し、受入体制を拡充する
- 他地域での災害に備えた災害医療派遣体制を充実させる

- ・ 災害対応体制の充実
- ・ 人材の育成
- ・ 災害発生時における県との円滑な連携
- ・ 新病院における感染症病床の整備、受入体制の構築

中 期 計 画

具体的取組み

訓練実施回数

	H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
総合	3回	3回	3回	3回	3回	3回
西和	0回	3回	3回	3回	3回	3回
リハ	—	2回	2回	2回	2回	2回

DMAT要員の配置人数

	H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
総合	15人	16人	20人	20人	20人	20人

共通

- 災害対応体制の充実
  - ・ 災害を想定した3病院合同訓練の実施(年2回)
  - ・ 災害時を想定した構造設備、スペースの確保
  - ・ 地域の中核病院として、災害発生時の受入体制の強化
  - ・ 危機管理マニュアルの充実
  - ・ 災害時に備えた診療材料・医薬品等の必要物品・備品の備蓄及び定期点検
  - ・ 災害研修の実施

- 人材の育成
  - ・ トリプラーズのできる人材の育成

総合医療センター

- ・ 災害拠点病院としての機能強化
- ・ 専門性の高いスタッフ(DMAT等)の配置・育成
- ・ DMATを常時2チーム派遣できる体制の整備
- ・ ドクターヘリ等で搬送される重症な患者の積極的な受け入れ
- ・ 新病院における感染症病床の整備、受入体制の構築(感染症病床 6床整備)

西和医療センター

- ・ DMATに準ずる体制の整備

Ⅱ 県民の健康維持への貢献

4. 県民への医療・健康情報の提供

【期待する成果】

県民向け公開講座の開催回数

H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
3回	6回	6回	6回	6回	6回

現 状

○ 臨床指標の情報発信が不十分

5. 県が実施する健康長寿のまちづくりへの支援

【期待する成果】

平松周辺地域や西和地域で県が実施するまちづくりの取り組みに積極的に参加する

平松周辺地域や西和地域でのマイ健康カードの運用 (H29実施)

現 状

- 県立奈良病院跡地活用プロジェクト
- ・ 跡地活用の枠組みの検討
- ・ 多職種連携協議会準備会の開催
- ・ まちづくり講演会、協議会の開催
- 西和地域健康まちづくりプロジェクト
- ・ まちづくり準備会開催
- ・ 健康ステーション検討

法人の決意・方針

○ 県民が最適な医療が選択できるよう、県民に対して医療サービス情報を積極的に発信する

・ 臨床指標を含む情報の公開、発信

H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
臨床指標の設定・公開	数値の改善			

・ 広報担当者の配置

・ 公開講座の実施

○ 県と協働して、地域包括ケアシステムの構築に貢献する

中期計画

具体的取組み

○ 情報の公開・発信

- ・ 医療の質向上のための臨床指標(クリニカルインデキーター)の設定と公開
- ・ 治療体制、治療方法等
- ・ 治療機器、配置機器

○ 広報担当

- ・ 広報担当者の配置
- ・ タイムリーな情報の更新

○ 公開講座等の実施

- ・ 頻度の高い疾患の治療・予防についての公開講座の開催(ロコモティブシンドローム等)
- ・ 西和地域でのサテライト診療所を中心にロコモティブシンドローム等の普及・啓発

平松周辺地域でのまちづくりへの参画

H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
マイ健康カードの導入検討	→			マイ健康カードの運用

西和地域でのまちづくりへの参画

H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
マイ健康カードの導入検討	→			マイ健康カードの運用

○ 電子カルテと連動したマイ健康カードの導入

○ 県が実施する平松周辺地域でのまちづくりへの参画

- ・ 県が実施する西和地域でのまちづくりへの参画
- ・ 王寺駅前ビルを活用した地域包括ケアシステム拠点への参画

○ 地域包括支援センターとの連携

- ・ 在宅医療への支援
- ・ 保健師との交流、情報共有



大項目 IV 最高レベルの医の心と技をもった人材の育成

1. 最高レベルの医の心をもった人材の育成  
 【期待する成果】

患者満足度 「患者さんの気持ちを理解しようとしたか」

H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
86%	常に前年度より改善させる				100%に近づける

入院

患者満足度 「患者さんの気持ちを理解しようとしたか」

H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
76%	常に前年度より改善させる				100%に近づける

外来

職員満足度 「仕事にやりがいを感じているか」

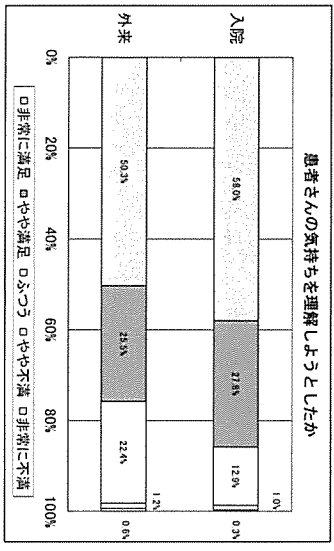
H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
60%	常に前年度より改善させる				90%以上

職員満足度 「WLB 私生活は配慮されているか」

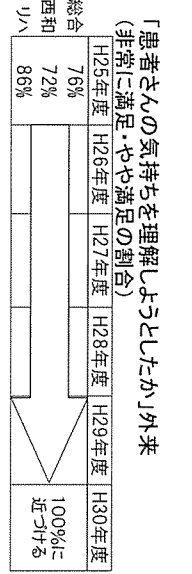
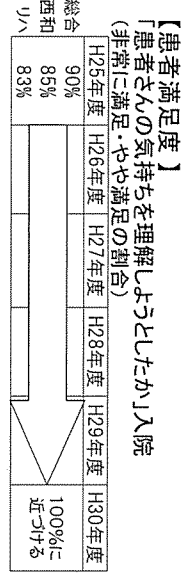
H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
51%	常に前年度より改善させる				90%以上

現 状

- 患者への接遇対応が十分ではない
- 育児や介護を前提とした休業制度はあるが、期間が限定されており、職員個人のライフコースに応じたきめこまかい勤務形態がない
- 院内保育の開設日や夜間保育の実施に制限がある
- 病児の保育がない
- 育児等で離職していた職員を現場復帰する支援が十分ではない
- 患者満足度調査結果



○ 職員のホスピタリティ醸成を図る



○ 働きがいを感じる仕組みと働きやすい職場環境をつくる

- ワークライフバランスの実現
- ・ 子育て職員の支援体制を充実させる

○ ホスピタリティ醸成研修の実施

・ 民間派遣研修の実施、接遇研修の開催

接遇研修参加人数

H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
54人	34人	500人	500人	500人	600人
西和	34人				
リハ					

- 意欲を引き出す人事給与制度の導入
- ・ 働きや成果に応じた適正な評価制度 給与制度の導入
- ・ 職員の表彰制度の創設

評価制度の見直し・新制度導入

H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
見直し	新制度導入			

○ ワークライフバランスの実現

- ・ 短時間勤務正職員など多様な勤務形態の導入
- ・ 子育て職員の支援、介護の支援
- ・ 院内保育の充実
- ・ 夜間保育の充実
- ・ 病児保育・病後児保育の導入
- ・ リハビリテーションセンターにおける保育体制の検討
- ・ 育休からの復帰など個々の状況に応じた復職支援プログラムを構築

ワークライフバランス推進委員会の設置・運営

H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
設置				
年4回開催				

院内保育の充実

H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
病児保育	開設(三室)		開設(奈良)	
夜間保育				

夜間保育の現状検証・改善検討・実施

職員離職率

H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
5.1%					
全体					
うち					
看護師	6.1%				

現状維持

2. 最高レベルの医の技をもった人材の育成

【期待する成果】

初期臨床研修医のマッチング率

H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
100%	100%	100%	100%	100%	100%

後期研修医数

H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
4人	8人	16人	30人	30人	30人

認定看護師数

H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
13人	18人	27人	33人	35人	38人

職員満足度 「能力を開発してこれていると感じるか」

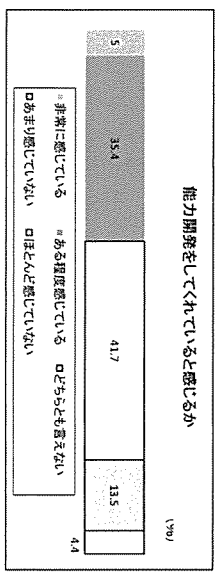
H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
40%	常に前年度より改善させる				80%以上

現 状

○後期研修医を専門医とするまでの長期研修カリキュラムが確立していない

○医療の高度化に対応し高度な医療水準を維持するための院内研修体制及び職員への支援が十分ではない

○職員満足度調査結果



法人の決意、方針

○教育研修センターの設置と充実

- すべての職員の卒後教育、生涯教育を一元的に管理
  - 職位別研修
  - 専門研修
  - 課題別研修
  - その他の研修(国内外留学等)
- 県内の医療水準の向上を図る
- 県内の医療機関の医療従事者の短期・長期研修等受け入れ
- キャリアアップ・スキルアップを支援する

中 期 計 画

具体的取組み

- すべての職員の卒後教育、生涯教育を一元的に管理
  - 2017年度からの新しい専門医制度に適合し後期研修制度、専攻医の魅力ある修練体制を構築し、キャリア形成支援を行う
  - 後期研修医プログラムの構築等
  - 新人看護師の実践教育の充実
  - 専門・実践研修の実施(事務部門、病院マネジメント研修を含む)
  - 臨床研究(・治験)を行うと同時に、客観的データから科学的根拠に基づき自ら評価を行い、質の高い医療の提供に努める
- 施設・設備の開放、センターが中心となって開催する医療従事者向けの研修や症例検討会等
- 県内の医療機関の医療従事者の短期・長期研修等受け入れ
- キャリアアップ・スキルアップの支援
- 国内留学制度、海外留学制度の導入
- 教育研修体制の充実
- 認定看護師等の資格取得支援
- 大学修学等のための自己啓発休業の導入
- 外国人医療従事者の受け入れによる医療技術交流

外国人医療従事者の受け入れ

年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
総合	8人	11人	16人	18人	19人	20人
西和	4人	4人	7人	10人	11人	12人
リハ	1人	3人	4人	5人	5人	6人

外国人医療従事者の受け入れ

体制検討	協定締結	受け入れ	受け入れ	受け入れ	H30年度
・整備	・通訳確保等	・準備	(2人)	→	→

- 専門知識を有する職員を積極的に確保
  - 専門医、専門看護師の確保
  - 認定薬剤師、医学物理士等の確保
  - 専門知識を有した事務職員の確保
- 魅力ある勤務環境を構築するとともに、戦略的な広報の展開
  - 後期研修医の処遇改善、長期プログラムの構築
  - リクルート活動の強化
  - 看護部のインタベンションプログラムの充実、受入体制の見直し
  - 看護技術の向上など看護部の活性化を図るため、大学卒等の看護師の積極的な確保

看護学生の育成のサポート

- 看護部の教育実習内容の充実、受入体制の見直し
- 臨床経験豊富な教員の養成、情熱・責任感・主体性のある教員の確保
- 病院看護部との連携

国家試験合格率(看護専門学校)

年度	H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
総合	89.5%	100%	100%	100%	100%	100%
西和	100%	100%	100%	100%	100%	100%

法人看護専門学校から法人への就職率(H25年度は見込値)

年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
総合	47.6%	60%	65%	70%	80%	80%

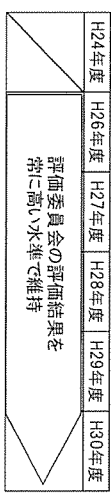
大項目	中期目標	中期計画
	中期目・成果目標	具体的取組み

1. 権限と責任を明確にしたガバナンス体制の確立

Y 自立した経営

【期待する成果】

中期目標の達成度



現 状

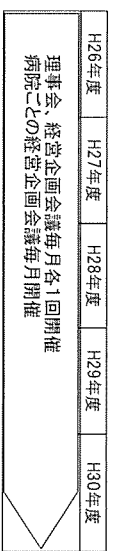
- 経営責任が不明確
- 医療現場の変動、変革に柔軟に対応できる意思決定体制ではない

- 中期目標を達成するため、責任ある意思決定体制の構築を行う

・ 経営企画機能の強化

・ 中期計画・年次計画の適正な実施

- 経営企画機能の強化
  - ・ 理事会、経営企画会議の定期的な開催による迅速な意思決定（四半期ごとにチェックが可能となる仕組みづくり）診療報酬の改定や患者ニーズの変化への柔軟な対応、月次収支を踏まえた改善の実施



・ 必要に応じた組織体制の見直し、各部門の責任者の明確化

・ 事務部門等の専門性の向上  
（医療経営、診療報酬制度、地方独立行政法人会計、簿記、コミュニケーション、医療メディアエーターにかかる研修会への参加）

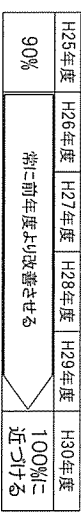
・ 専門知識を有した事務職員等の確保（診療情報管理士、医療経営士等）

- 中期計画・年次計画の適正な実施
  - ・ PDCAサイクルの確立と職員の意識改革（全ての職員による評価指標の数値の把握と改善の実施）

2. 経営に対する責任感をもって業務改善に取り組む組織文化の醸成

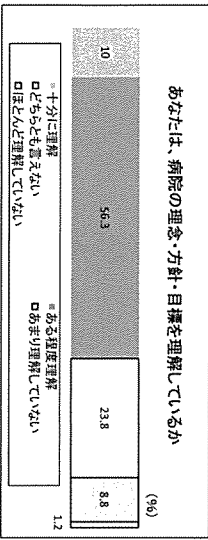
【期待する成果】

職員満足度（理念・方針・目標を理解しているか）



現 状

○ 職員満足度調査結果



- 個人の行動を組織のゴール・価値観に合致させる

・ 組織アインテイナー・ロイヤリテイの確立

・ 法人に関する情報の発信・共有による経営参画意識の向上支援

・ 業務改善に係る提案や取組みを奨励し、評価する仕組みの構築

- 組織アインテイナー・ロイヤリテイの確立
  - ・ 法人の基本理念を浸透させるための採用時研修の実施
  - ・ リーダー研修・マネジメント研修・コミュニケーション研修等の充実
  - ・ 各病院において、診療報酬制度等の研修会による職員の経営意識の醸成

- 法人に関する情報の発信・共有による経営参画意識の向上支援
  - ・ 広報担当者の配置
  - ・ 経営企画委員会等の定期的な開催を通じて経営指標や問題点等の情報共有
  - ・ 職員満足度調査の実施及び結果に基づいた改善
  - ・ インtranetの活用・経営情報等の掲示
  - ・ 全職員でのコミュニケーションの場の創出

- 業務改善に係る提案や取組みを奨励し、評価する仕組みの構築
  - ・ 優れた改善取組の法人全体への反映
  - ・ 表彰の実施と優秀事例発表会の開催

V 自立した経営  
3 医療制度等の変化への迅速・柔軟な対応と自立した財務運営

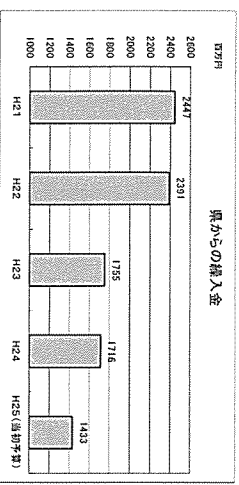
【期待する成果】

経常収支比率	H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
	102.2%		常に前年度より改善させる			10%増

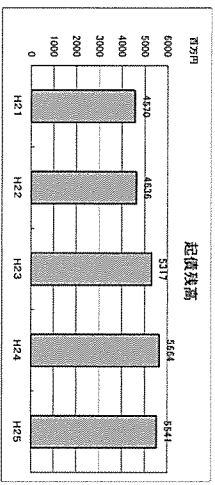
現状

○ 独立採算の経営ができていない

3病院で県からの繰入金 約14億円 (H25年度予算)



○ 多額の起債残高 約55億円 (H25年度末残高)



○ 成長のための再投資が可能となるよう内部留保を確保する

経営収支比率									
	H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
総合	105.9%	100.8%	107.4%	106.4%	105.8%	118.5%			
西和	96.5%	99.3%	108.9%	110.5%	111.8%	111.7%			
リハ	104.8%	102.2%	106.3%	106.5%	105.9%	105.0%			
実収支比率									
	H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
総合	96.0%	96.9%	98.2%	97.0%	97.6%	100.8%			
西和	88.6%	96.7%	101.0%	102.5%	103.6%	103.7%			
リハ	98.4%	96.2%	100.2%	100.4%	99.9%	99.0%			
個人未収金額									
	H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
総合	266,127千円	220,000千円	210,000千円	200,000千円	190,000千円	180,000千円			
西和	71,781千円	70,000千円	67,500千円	65,000千円	62,500千円	60,000千円			
リハ	-	1,800千円	1,800千円	1,800千円	1,800千円	1,800千円			

○ 効果的・効果的な予算執行

- ・スケジュールリットを活かした契約手法の導入、業務の集約化
- ・中長期の予算計画等地方独立行政法人会計制度の活用

○ 収益の確保

- 【適正な診療報酬の請求】
  - ・診療報酬の改定や患者ニーズの変化への柔軟な対応
  - ・診療報酬算定のための新たな施設基準を適直検証して取得することによる収益確保
  - ・診療報酬請求内容の子エツク体制の充実による、請求漏れ防止対策の推進。
  - ・診療報酬改定や法改正への的確な対応(専門知識を有した事務職員等の配置)
  - ・審査機関による査定への対策の強化
  - ・DPC分析による診療の適正化

【病床利用・新患者受入】

- ・病病、病診連携の強化、病床管理の弾力化による病床利用率の向上
- ・手術、検査の実施に関し、実施件数体の見直し
- ・ベッドコントロールの一元管理を行い、平均在院日数を短縮化するなどの病床管理の基準の制定
- ・地域医療機関との連携による新入院患者の確保
- ・クリニックへの整備と適用の徹底

【未収金】

- ・未収金回収専門員の配置、専門業者への委託
- ・患者支払い相談の実施による収納率の向上

【資産有効活用・施設メンテナンス】

- ・高度医療機器の稼働率の向上
- ・医療機器、施設等の購入・建築・修繕時において、ライフサイクルコストを見据えた設備投資・更新計画の策定と実行
- ・遊休資産の効率的使用への見直し

○ 費用の節減

- 【経費削減】
  - ・複数年契約(診療材料購買契約等)や複合契約など、多様な契約・委託方法の活用による費用の縮減
  - ・委託業者の定期的なモニタリングによる、業務内容の改善、業務水準の維持
  - ・各種システム(財務会計システム、人事給与システム等)の導入による効率的な業務運営
- 【材料費削減】
  - ・薬品、診療材料等の材料費の見直し
  - ・共同購入品の拡大と値引き幅の拡大
  - ・後発医薬品の取り扱いの増加

- 人件費比率の適正化
- 専門知識を有した事務職員等の確保(診療情報管理士、医療経営士等)
- 経営管理手法の活用
- ・膨大なデータ分析等の実施